『九州の地域課題を解決する、若者がチャレンジできるビジネス拠点づくり』

空き家活用に関するアンケート

実施報告書

2024年3月

一般社団法人　SINKa

空き家活用に関するアンケート
報告書

一般社団法人SINKaでは、国土交通省「令和5年度空き家対策モデル事業」の一環として『九州の地域課題を解決する、若者がチャレンジできるビジネス拠点づくり』をテーマに、空き家、空き店舗を活用してソーシャルビジネスを生み出していく事業を推進しており、九州の社会的（地域）課題を解決しての、暮らし向上に向けて取り組んでいます。このたび、生活圏での空き家、空き店舗などの状況や、空き家、空き店舗の活用についての意識調査として「空き家活用に関するアンケート」を実施しました。

結果要約

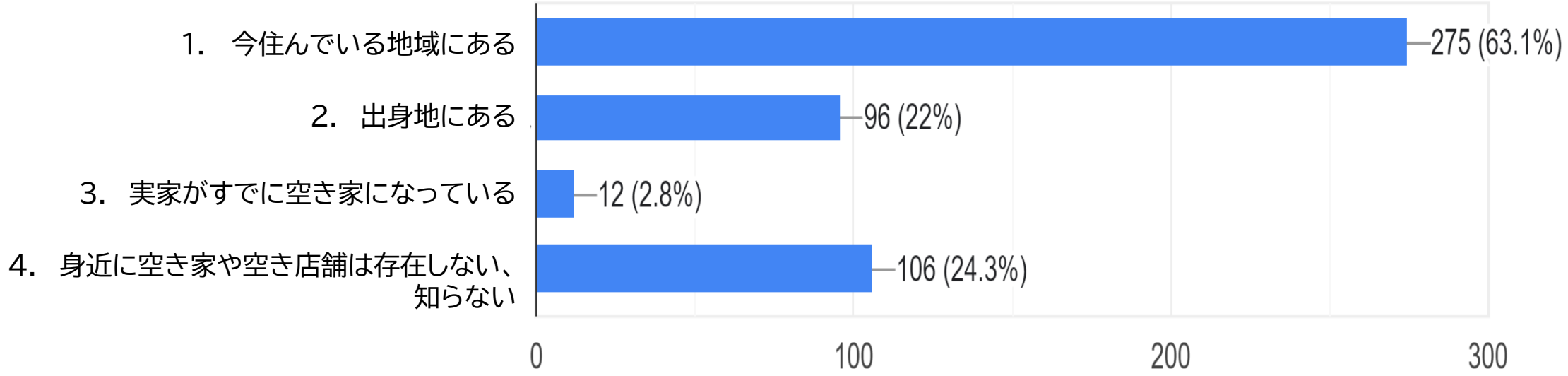
空き家、空き店舗の存在が都市部でも身近になってきたことがわかりました。空き家の増加は、地域全体の問題として懸念されています。

しかし自分で空き家活用をしたいと考える人はまだ多くはなく、活用の方法や活用の効果などの情報があり、活用についての相談相手があれば、地域活性化や若者の活躍の場として活用を考える人も増えることが推測される結果が得られました。

調査概要

◆ 対象：福岡県および九州全域の一般生活者
◆ 実施期間：2023年2月
◆ 実施方法：インターネットを利用して、Googleフォームへの入力による
◆ 周知方法：LINEやFacebookによる依頼（約8,000件）
◆ 実施主体：一般社団法人 SINKa
◆ 回答総数：436件

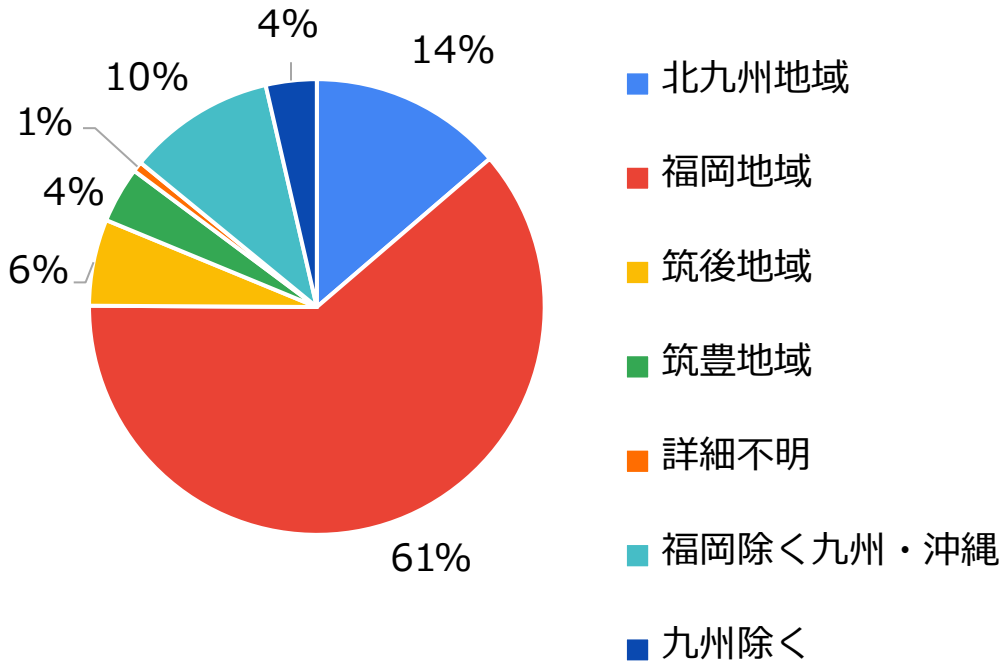
Q2　あなたの住んでいる地域や、出身地に空き家、空き店舗などがありますか？（複数回答）



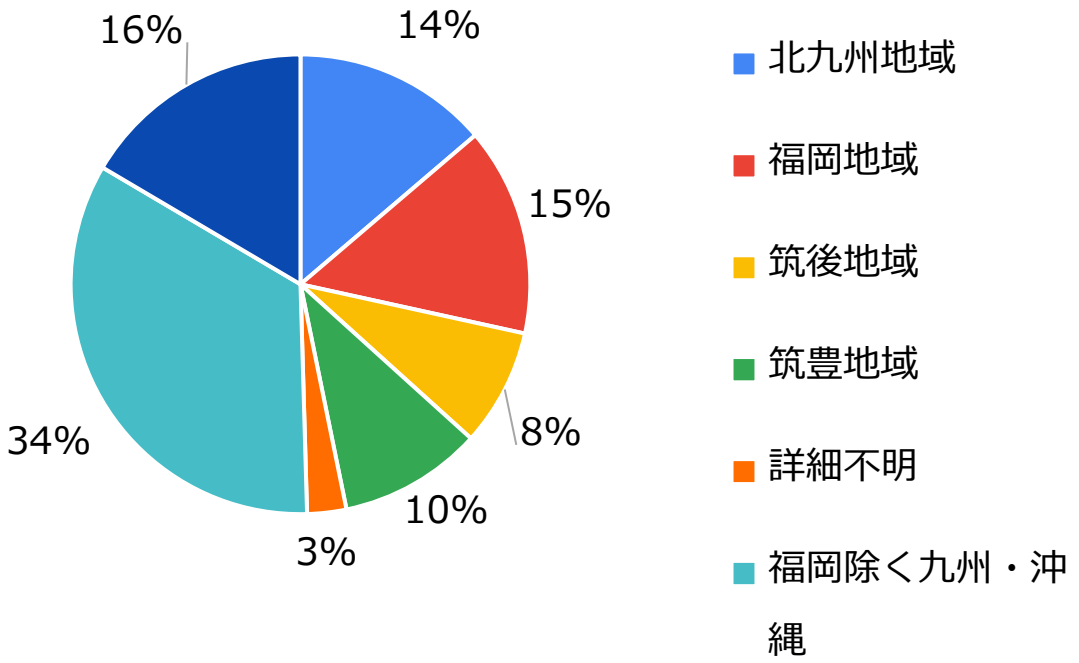
空き家、空き店舗の存在認識は、現在住んでいる地域にあるとの回答が6割以上、さらに出身地にあるとの回答も2割以上あり、空き家の存在が一般生活者の意識にも広がっていることがわかりました。

Q2　あなたの住んでいる地域や、出身地に空き家、空き店舗などがありますか？（複数回答）

今住んでいる地域にある

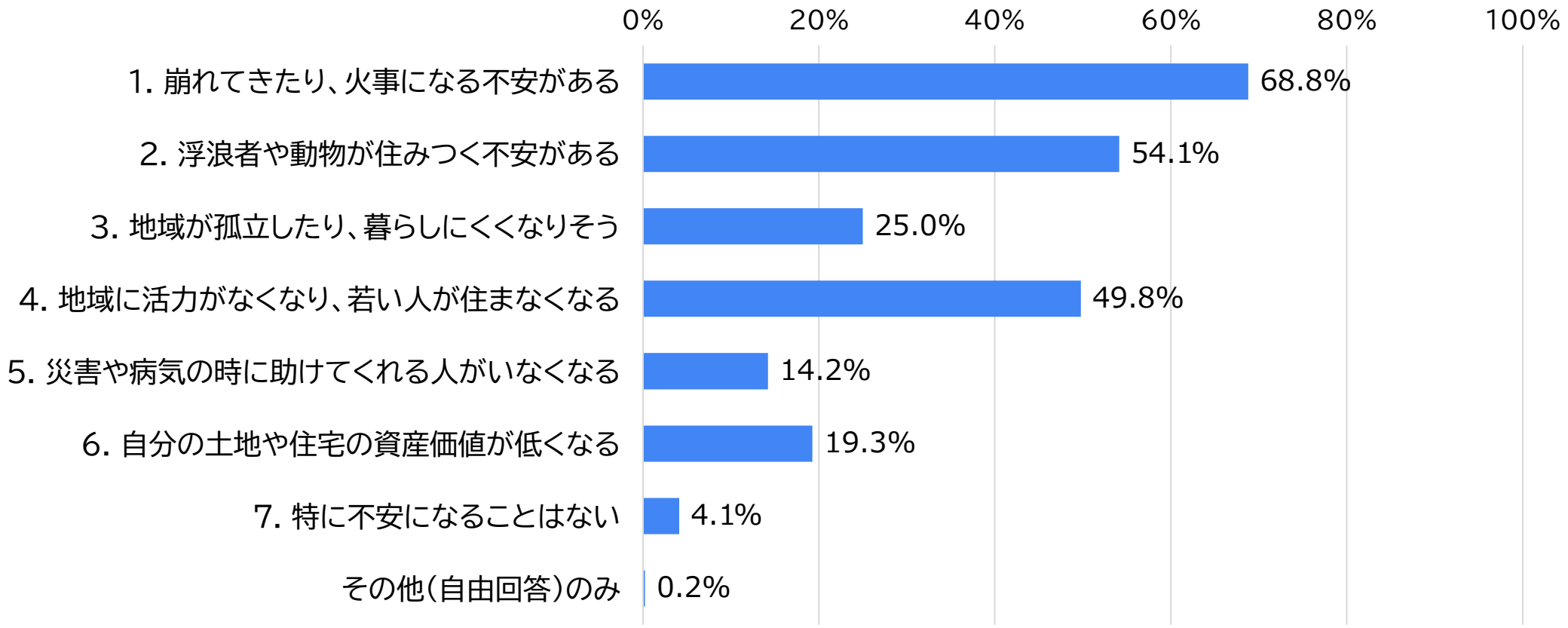


出身地にある



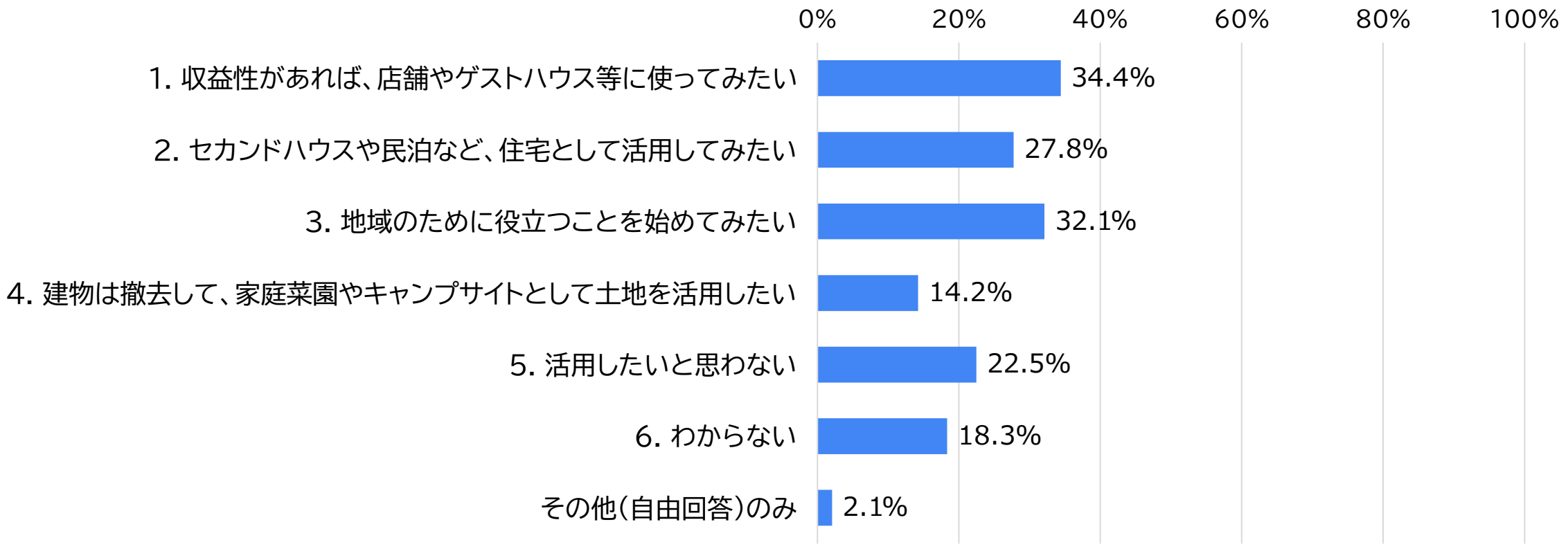
空き家、空き店舗が、今住んでいる地域にあると答えた方の地域は福岡地域が6割あり、比較的空き家が少ないと思われている地域にも増えていることがはっきりしました。また空き家がある出身地としては、筑豊地域の割合が増加し、筑後地域も多い傾向が見られます。

Q3　住んでいる地域に空き家が増えることで懸念することがありますか？



空き家が増えることにより懸念することでは、倒壊や火災、他人や動物の侵入などのハード面ばかりでなく、地域の孤立や若者の流出などにも懸念を抱いていることもわかりました。空き家や空き店舗が、地域の生活や経済全体に影響を及ぼす存在となってきています。

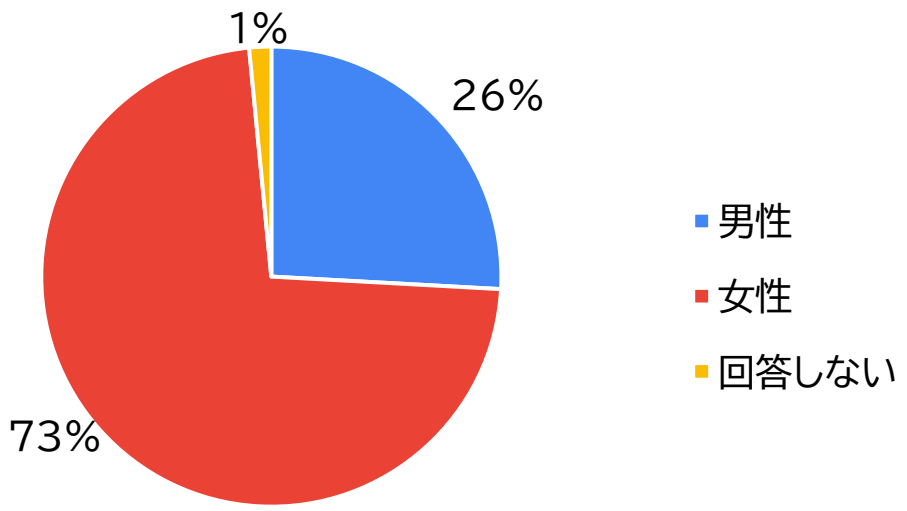
Q4　ご自分で、空き家や空き店舗などを活用してみたいと思いますか？



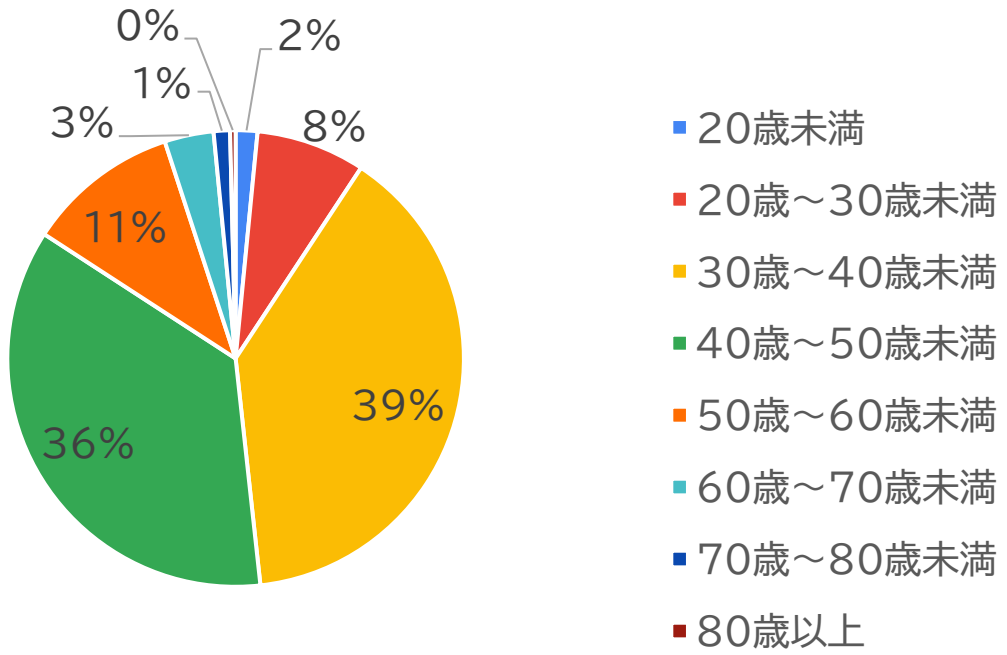
空き家の活用については、収益性による活用に続いて、地域のための活用を検討したい人たちが3分の1近く存在しています。活用したいと思わない人は4分の1以下であり、活用方法や活用の効果などの情報提供が重要と考えられます。

Q4　ご自分で、空き家や空き店舗などを活用してみたいと思いますか？

活用してみたい回答の性別

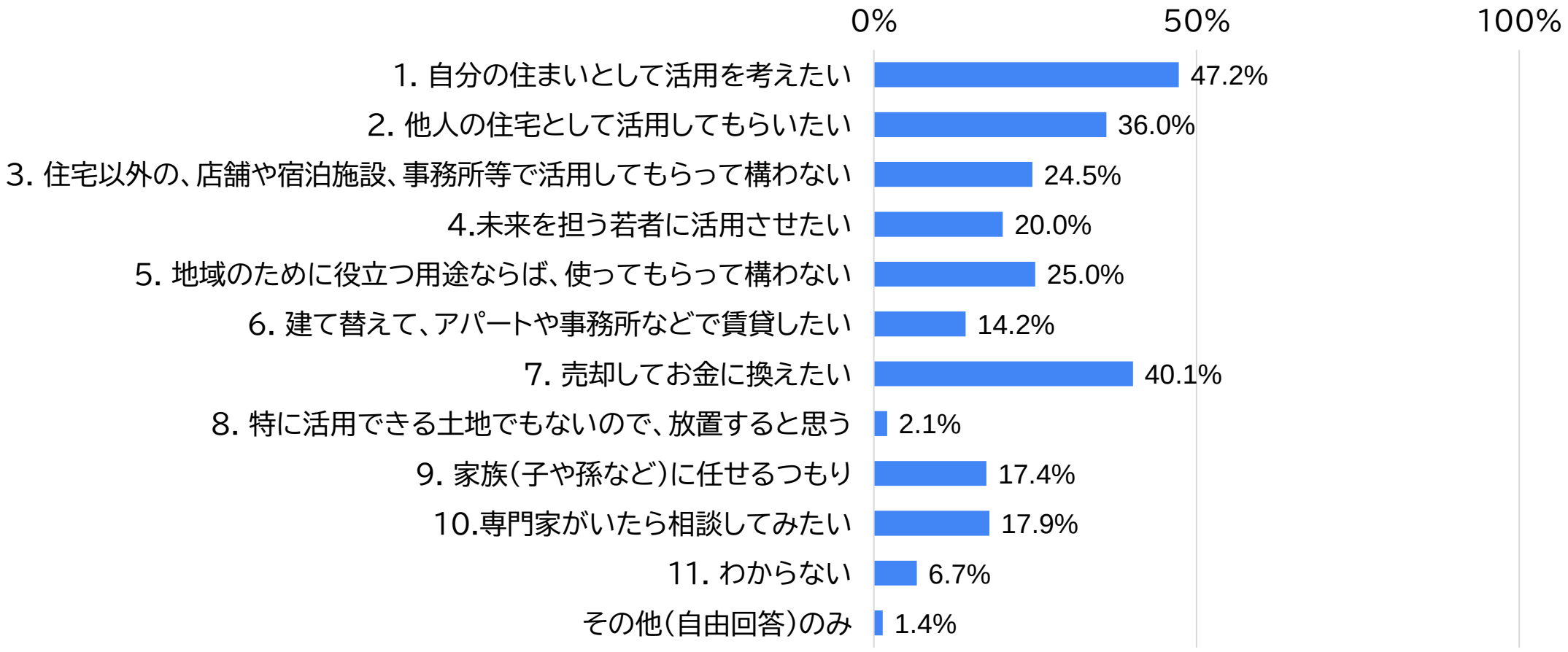


活用してみたい回答の年齢



何らかの目的で活用したいと回答した人は女性に多い傾向があるようです。また年代としては30代と40代が合わせて4分の3を占めており、自身の生活や事業として空き家活用に取り組みたいと考えていることがうかがえます。

Q7　自宅や実家が空き家になったら、活用したいと思いますか？



自宅や実家が空き家になった場合のことを尋ねると、自分の住まいとしての利用に次いで、売却を考える人が4割に達しています。活用意向との違いが見られ、空き家の活用には課題があることが想像されます。専門家に相談したいとの回答が一定数あることからは、空き家や空き店舗の活用の方法がわかれば、活用に結びつく可能性を感じます。

Q8　地域に若者が住み、地域がにぎわう等、空き家や空き店舗をうまく活用していると思う事例

・学生たちが子どもにプログラミング学習を教えている
・アトリエとして空き家を改造して若者が集う新しい空間にしている
・アパートの一角がレンタルスペースになっていて、イベントが行われたりしている
・カフェや雑貨屋として使ってある
・グループホームなど小規模福祉施設に活用し、若手の雇用を増やす
・リノベーションして、おしゃれにする。月イチくらいで、ワークショップやマルシェを開く
・レンタルスペースとして活用している
・移住者が空き家を使用して民泊などの宿泊施設を設け、若者が寄りつくので賑わっている
・家賃を思い切り安くして、スタートアップしやすい環境を作っている
・元空き家を若者のシェアハウスにしている
・定期的にマルシェの会場として使っている
・古民家カフェ
・古民家体験施設、レンタルスペース
・子ども食堂と放課後デイサービス
・空き家を若者に無償で貸与し、蒸留所造りにチャレンジしています
・農業をしたい若い世代の家族が住んで、農業をしたりお店を出したりしている
・味噌屋やコーヒー屋などこだわりを持った特定の商品を扱う店
・地域の方や若者でDIYを行い、シェアキッチンとして利用している
・若者たちが飲食店をオープンさせて、若者たちが集まれる場所を作っている
・大学生が貸しイベント古民家として活用
・廃校のグランドでキッチンカーやマルシェ

活用したいと回答した人たちが、どのような活用事例を知っているかを答えてもらったところ、回答者436件のうち191人が事例を答えました。
「空き家や空き店舗の活用」に関して興味をもつ人が多く、好意的に受け取られているようです。

本件に関するお問い合せ先
一般社団法人SINKa
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1丁目3番14号 小榎ビル3F
e-mail：info@sinkweb.net